

# 出張報告書

令和2年2月4日

氏名 市議会議員 河野 淳一	用務 (株)地方議会総合研究所主催セミナーに参加
期間 令和2年2月3日から 令和2年2月3日まで	出張先 大阪府大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル9F

## 調査事項・意見

【2月3日】 10:00～17:00

- ① 第8期介護保険事業計画の展望
- ② 地域包括ケアシステムの実践と課題

## 【初見】

- ① 現下の財政赤字は高齢化に伴う社会保障費の増加を主因とする歳出増に対し、それを賄う税収は労働人口減少による税収減によるもの。日本の社会保障制度はOECD諸国と比較して、受益が実際の負担（社会保険料+税）を大きく上回り、社会保障制度の財政的な持続が困難な状況。持続可能な制度の再構築および介護現場の革新（給付と負担）が今後の介護保険事業の課題であることを学んだ。
- ② 地域包括ケアシステムは、高齢者になっても住み慣れた地域で、自立した生活を最期までおくることができるように、必要な医療、介護、福祉サービス等を一体的に提供し、すべての世代で支え・支えられるまちづくりの基本となる仕組み。地域包括ケアシステムの構築は各市町村で3年ごとに策定する「介護保険事業計画」に基づき計画的に進められ、地域ごとの独自のケアシステムとなる。そのケアシステム構築の方法として次の3つのプロセス、1地域の課題の把握と社会資源の発掘、2地域関係者による対応策の検討、3対応策の決定と実行を経て進めることが国から示されている。よって、上記3つのプロセスを注視し、「介護」、「医療」、「予防」、「生活支援」、「住まいと住まい方」が効果的かつ総合的に受益者に提供できるシステムになっているかをチェックすることが必要であることを学んだ。